特許

倉

实用新案出顧公告 昭 28-6522

84 E 71

実用新案公

,,<u>,,,</u>

公告 昭 28.7.16 実願 昭 27—21011 出廊 昭 26.11.21

髙

(前特許出願日援用)

央駅 桁 21—21013

田

新潟縣佐渡郡赤泊村大字赤泊189

(全2頁)

櫓の推進補助裝置

図面の路解

出願人 考案者

第1図は本案裝置を設けた櫓の平面図、第2図 は本案の側面図、第3図は本案の平面図である。

実用新案の性質、作用及效果の要領

本案は櫓の水搖翼部の先端表面に鰌の如く、水 揺翼板を更に附加的に設け、櫓の操作と共に水揺 翼板は水を揺き、舟の推進を容易ならしめるよう にした櫓の推進補助装置であつて、図中1は櫓の 水攝翼部、2は櫓の水抵翼部を帯狀に卷き裏面を 櫓に固着せしめたる合板、3は台板に取付けたる 山形板、4は山形板の中央垂直辺に設けたる蝶番 5は蝶番を介して取付けたる水攝翼板、6は水攝 翼板の運動を制御する為両面同位置に取付けたる 制止突起板、7は櫓腕を示す。

山形板3は水極翼板5を螺番4にて完全に保持 田来、また制止突起板6の先端を完全に支へ侵る 程度にて、なるべく小形にする、即ち山形板3は 櫓の水極翼部1の姿面に固定した突起部になり、 櫓の水極作用上に於て僅かながら不用の抵抗を生 する為である、櫓漕運動は、櫓腕7を前方に押し 出し、それを逆に引き返す、この動作を繰返し行 でよるのであるから、本案の装置は、櫓腕7を前方 に押し出す場合、水扱翼板 5 は水に抵抗し、制止 突起板 6 及び山形板 3 によつて支へられ、第1 図 に示す如くになり水を掻く、櫓腕 7 を逆に引き返 す場合は、其の反対の狀態に変り水を掻く、即ち 櫓の水掻翼部1 に水掻翼板 5 は併行し間断なく共 に水掛作用をなするのである。

本案は魚が尾餅の運動にて前進する作用を機に応用せるものにして、即ち水攝翼板5は魚の尾鰭に該当し、其の水攝きは松本来の推進力と併行し極めて有効な均加推進力を生ぜしむるものである。 - 斯の如くにして本案を機に装置すれば多大の効果を得られ、本案を機の推進補助装置として極めて有用のものである。

登録請求の範囲

図に示す通り、格の水極翼部1の先端に、台板2を帯状に巻き、裏面を機に固着せしめ、其の台板2に山形板3を取付け、この山形板3の中央垂直辺に線番4を設け、其の線番4を介して水極翼板5を取付け、水極翼板5の両面同位置に制止突起板6を取付けて。成る、格の一推進補助装置の構造。

CO BREE

4、2006年代政治1978年8月

对特种工作的人的遗憾的 歌

(1 1 to 1)

第1図

为结点 5 WAS 19 中四十四次20 18 19 個子が、ストペラさしてつる株質 藏土性 原原 一方傳 一方傳 化 在第一个第一形像成性强温性好多。 进入了智知公理中与行法 追逐 11 所造出人。此 4 5 do 36 - 4 30 理解多据的人 机斯尔士的植物 原列 **网络年为企品的第三词名。1917** 湯 だっとうれ 近くなかの 群 可支配物 海龍 神经多别类性 學就不是也不能不能的學問如為 學情學 人工

部場のより最繁 494 起音,这些话也多名争识是。 意《宋·传·诗·西部为有与诸是《古沙·马沙·多 · 新中央八至知道在111 > 14·14 中日 数据光点 化化学完全 7:3 罗万德运输的特殊无法 在《证据》 養物変数の まじか 一切。

化激化流流法 了新鲜的说,在约·罗朱宝的意。 一次,在多數。15、次、海邊與聯盟的 的现在分词 だっと ウェンス・デービスとから発出なった機能力 (2) (1) (日本) 第3図 合き水準 10/発化の財 公司 化自己 医复数阴极性 医硬带的结束 医腹椎丛 とは繁體を介えられ(権)と 不可能可能認可遵循 **《京都教》 具有基本企业的 國際企** "沙发法庭文人",该品 726年10日 而是1個政策上。200 医氯苯酚 建硫矿 S COMPANY Sille Ladoration X 等。例如 **请证,2011和解除价户**

2.4